



「郷土芸能によるステージ」と  
 「人形劇ひよっこりひょうたん島」in 生口島



生口島の郷土芸能

# 名荷神楽

人形劇団 ひとみ座

## ひよっこり ひょうたん島

「泣いたトラヒゲの巻」

まるい地球の水平線に 何かがきつと待っている



©井上ひさし/山元謙久・ひとみ座・NEP21 キャラクターデザイン片岡昌

2019年

1月27日(日) 午後5時開演

(午後4時30分開場)

会場:ベル・カントホール

尾道市瀬戸田町瀬戸田535-1

●料金 500円(前売・当日) 未就学児無料 全席自由

文化庁委託事業  
 平成三十年度  
 戦略的芸術文化創造推進事業  
 【主催】  
 文化庁  
 有限会社ひとみ座  
 【制作】  
 有限会社ひとみ座



文化庁

# みょうがかぐら 名荷神楽

名荷神楽は、昭和43年広島県無形民俗文化財に指定されました。神楽全体(十二紙祇)が指定されているものは、名荷神楽のみです。いつ頃から始まったかは定かではありませんが、現存する台本には元治元年(1864年)、舞台の暖簾には弘化三年(1846年)と記されています。現在は、4月の第1日曜日に、生石神社(荒神様)春の例祭日として行われています。五穀成就・氏子繁栄のため、氏子を六地区に分けて当番制で行われ、今日まで継承されてきました。本公演では、名荷神楽団による悪魔払い神祇と劔舞神祇をお見せします。



## ひょっこりひょうたん島

### 「泣いたトラヒゲの巻」

ひとみ座の舞台のために書かれた唯一の台本。放送当時のセリフとともによみがえる!

～あらすじ～

ある日のこと、「コケッコー!」トラヒゲがニワトリのかっこうをしています。ガバチョもハカセもサンデー先生もびっくりです。タマゴをあたためてヒヨコにかえし、ニワトリに育ててタマゴを産ませて、トラヒゲデパートで売ろうとしていたのです。ところが育ったニワトリたちは、タマゴを産まないオンドリばかりで…?!

1964年から1969年までの5年間、放送回数1224回。日本中の人に愛された「ひょっこりひょうたん島」は、今もおかしな旅を続けています。



## 2019年 1月 27日(日) 午後5時開演(午後4時30分開場)

### 会場：ベル・カントホール

料金 500円(前売・当日) 未就学児無料 全席自由

チケット販売

尾道市瀬戸田市民会館、瀬戸田町観光案内所、一般社団法人尾道観光協会  
尾道駅観光案内所、新尾道駅観光案内所、ロープウェイ山麓駅観光案内所

お問い合わせ 一般社団法人 尾道観光協会 TEL.0848-36-5495  
人形劇団ひとみ座 TEL.044-777-2225

主催:文化庁・有限会社ひとみ座 共催:一般社団法人尾道観光協会  
後援:尾道市・中国新聞備後本社・尾道エフエム放送

